

そうじの力だより

VOL.218



支援事例紹介

「トップの思い切りが、組織を甦らせる！」
「捨てれば得られる」

千葉市稲毛区で二つの介護施設を運営する(株)アヴァンス。中嶋春子社長は、一代でこの会社を立ち上げ成長させた、肝玉母さんです。

同社では、一昨年から、会社をより一層発展させるため、これまで行っていたなかった新卒採用をはじめました。

そしてこれを機に、社内の体制を整えるべく、環境整備に取り組むことを決め、弊社にサポートの依頼があり、お手伝いに着手しました。

長年事業を続けてきただけあって、当初は、事務所内にも、施設内にも、不要なものが大量にありました。

まずは、その不要物を整理、つまり捨てるところから活動がスタートしました。



社長と新入社員たちで食器を整理する

たとえば、施設に置いてあったイス。大柄なイスが一脚あり、かなりのスペースを占有しているのですが、よくよく聞いてみると、利用者が座っているのを見たことがないとか。ならば処分しようというところで処分しましたが、おかげで、大きなスペースが生まれまし

た。

また、利用者が使うレク

リエーション道具についても、当初はあふ

れんばかりのもの

がストックしてあり

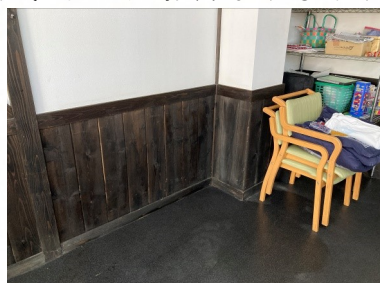
ました。絵や折り紙など、過去の

利用者が作ったものがそのまま残っているのです

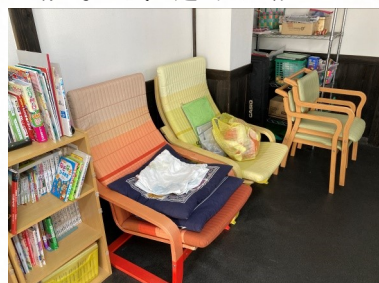
が、今は使われていません。それらも処分して、収納していた棚も、コンパクトなものに代えました。

本や雑誌、食器なども、いたずらに増やしてしまったものを、現在使っているものだけに整理しました。

興味深かったのは、テレビを載せていた台です。昭和の時代に流行ったような大柄な箆笥なのですが、大きすぎて無駄にスペースを食ってしまっています。また付属している金具が破損して、危険な状態になっていました。ところがこの



イスを処分して、スペースが広がった



使われていなかった二脚のイス

箆笥社長が創業時に買ったものとのこの思い入れがなかなか捨てる決断ができません。

それでも、捨てるようという話が出たから

数か月後に筆者が訪

れてみる

とそれがなくなり、代わりに、コンパクトな網ラックにテレビが載っていました。

こうして、社長が思い出の品々を思い切って処分してくれたことで、社内の取り組みが加速した感があります。

感心したのは、新入社員の積極さ。先述したレク道具の棚は、新入社員Kさんの発案により、コンパクトで使いやすい棚に買い替えることができました。若く新鮮な感性で、社内がだんだんと生まれ変わってきます。



コンパクトな網ラックにテレビを載せた



以前にテレビを載せていた古い箆笥

整理(捨てる)からはじめて、整頓(置場を整える)、清掃(掃く拭く磨く)と、徐々に活動が拡がり、かつ深まっています。

キッチンも、当初はかなり汚れていました。不要な鍋やフライパン、タッパー類、調味料などを捨て、無駄なものもなくしました。

シンク下の床面や壁面にこびりついた油分を、磨いて落としていき、キッチン



キッチンの床面の油汚れを磨いて落とす

環境整備に取り組んだおかげで、施設内の利用者スペースが拡がり、新たな運動機器「ポディー・スパイダー」も設置することができました。

事務所エリアも、動線が良くなり、仕事がしやすくなりました。

活動を通じて、社員の中に、リーダーシップを取れる人も出てきて、社内コミュニケーションも良くなってきました。

まだまだ、活動は端緒にいたばかりです。手のついていない課題もたくさんあります。今後もコツコツと活動を継続して、より良い組織にしていってほしいと思います。(小早)

企業・団体の研修や講演を承ります。目的や対象者に応じて、時間や内容をカスタマイズできます。まずはホームページをご覧ください。



コラム

ビッグモーター不正問題と環境整備

～目的を誤ると、得られる結果は一八〇度違う～

このところ、ビッグモーター社の不正問題が世間を騒がせています。新聞やテレビの報道の中で、同社の「環境整備点検」という制度が、悪さをしてきた可能性が指摘されています。

環境整備とは、企業における「規律・清潔・整頓・安全・衛生」の活動のことで、「5S活動」や「そうじ」と呼ばれる活動と、アクションの概略は同じです。

環境整備を行うと、安全性と生産性と快適性が向上するのみならず、社内へのベクトルが合う、という効用があります。

環境整備はあくまでも手法でありツールであるので、環境整備そのものに罪はありません。環境整備を通じて素晴らしい組織を作っている会社はたくさんありますし、弊社も、まさにそのお手伝いをするのが業務であります。

では、ビッグモーター社と私たちでは、何が違うのでしょうか？

まず、「目的」が違います。推測ではありませんが、おそらくB社の環境整備の目的は、「社員を経営者の意のままに従わせること」ではないかと思われます。先述したとおり、環境整備にはベクトル合わせの効用があり、それを悪用したと言えるでしょう。

対して、私たちが環境整備に取り組む目的は、「各人の自立性を育て、互いに協力し合う社風の構築」です。

そして目的の違いは、当然、プロセスの違いに反映され、運用されます。

B社では、マスコミを賑わせた「環境整備

点検」という定期チェックが行われ、それで減点されると、減給や降格というシビアなペナルティが課せられます。これはかなり激しい強制力となります。

いってみれば、B社では、アメとムチによって、環境整備が行われているのです。

対して、私たちの活動のプロセスでは、自発性と創意工夫を尊重します。盛り上げ策として、定期的な発表会や表彰といったイベントを組むこともあります。

実は、どちらの場合にも、「見た目の結果は、似たようなものになります。つまり、「整理・整頓・清掃の行き届いた環境」ができるのです。

ところが、内面的結果は、一八〇度違うものになります。B社の場合は、「上意下達、全体主義」の風土になるの

に對して、私たちが「自由闊達で柔軟」な風土になります。つまり、「ここにサイクル」が回る社風になるのです。

このように、同じ手法を用いても、目的やプロセスが違うと、結果は一八〇度違うものになります。

根本は、経営者の理念(哲学)。「企業は世の中の役に立つために存在する」という当たり前の理念を持つことです。(小早)



編集後記

オモチャの効能

昔から、走るのが苦手だったのですが、なんとなく、少し走ってみようと思ひ、体のケアのことでお世話になっているトレーナーの方に相談したところ、「小早さん、まずは時計を買きましょう」とのこと。

さっそく、距離やペース、脈拍数などを計れるスマートウォッチを購入。

すると、これで計測するのが楽しくなり、それに伴って、走ることが楽しくなってきました。

あれほど走るのが嫌いだったのに、最近は、週に2回ほど、ジョギングを楽しんでいます。(小早)



飛鳥のつぶやき

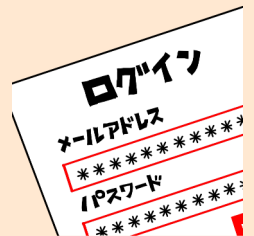
SF

だんだんとタブレットのゲームで遊ぶようになってきた子供たち。

アカウントもパスワードも、アプリで管理はしているのですが、親子で3人分の把握・調整・管理がぐっと増え、目を回しています。

指先にチップを埋め込んで一瞬で本人確認完了！のようなSF世界が、おばあさんになるまでに実現してほしいなあ～！と思いながら、今日も家族マネージャー業に勤めます。(3)△

(大槻)



株式会社そうじの力

そうじで組織と人を磨く、
日本で唯一の研修会社

弊社は「そうじ＝環境整備」を通じ

た「企業風土改革」を支援します。

講義、実習、チームミーティング、計画作り、現場巡回を通じて、社長と社員の意識改革を図り、健全な企業風土作りをお手伝いします。

支援期間は1年から。毎月1回訪問を原則としますが、状況とご要望に応じて、プログラムをオーダーメイドします。また各種団体向けの講演のご依頼も受け付けております。(全国対応)

X(旧ツイッター)で、『環境整備 一日一言』を毎日更新しています。ぜひフォローしてみてください！